

和歌山市中心市街地活性化基本計画（改訂版）策定のための市民ワークショップ 第4回（7月14日）開催記録

第4回目の「和歌山市中心市街地活性化基本計画（改訂版）策定のための市民ワークショップ」が、7月14日（水）午後6時30分より、和歌山市役所14階大会議室で開催されました。

今回のワーキングから、「自分たちがすること・できること」、「TMOがすること・できること」、「行政がすること・できること」をそれぞれのグループテーマに沿って検討していきます。

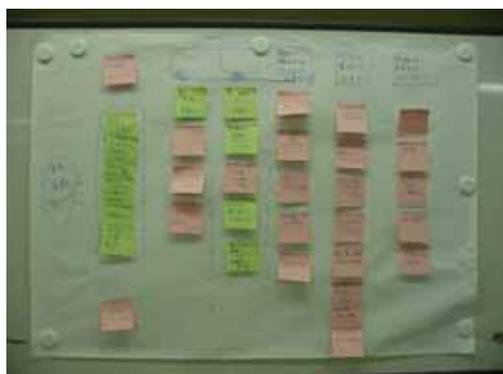
グループ討議(ワーキング3)

ワーキング1・2では、中心市街地の現状や課題を把握し、その解決策について話し合い検討を行いました。今回のワーキングから3回は、中心市街地活性化のために具体的に何をするのがよいかを探るため、「自分たちがすること・できること」、「TMOがすること・できること」、「行政がすること・できること」について、A～Dそれぞれのグループテーマに沿って討議を行います。

前回に引き続き、アドバイザー役の15人のワーキング協働スタッフ（TMO・県・市職員）も4グループに分かれて入り、討議に参加して市民メンバーからの質問に答えつつ意見を述べるといった形でワーキングを進めました。



討議終了後、各グループの代表者が、自分たちの検討結果のまとめを発表しました。それぞれのグループの検討結果は次のとおりです。



※写真はCグループの検討結果

Aグループ

「個店の魅力で人を惹きつけるまち」賑わい性創出ワーキンググループ

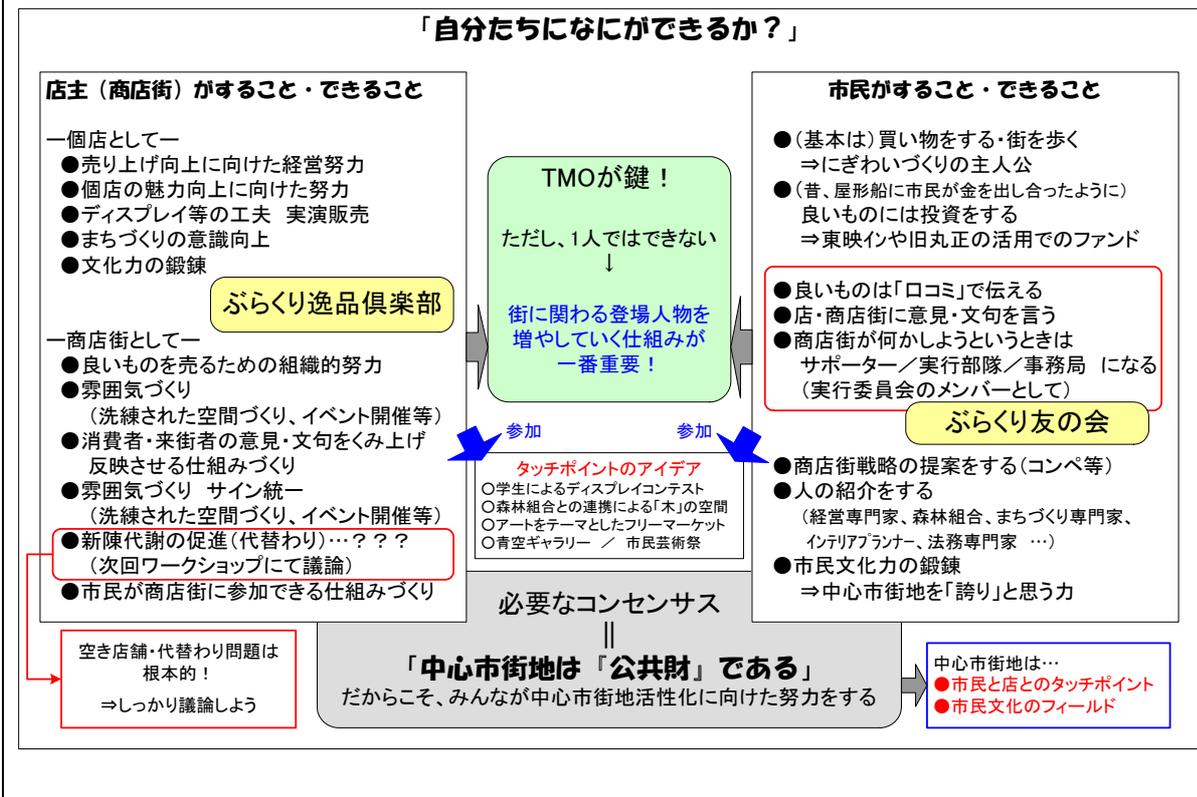
今回の議題	「自分たち、TMO、行政が すること・できること」	ファシリテータ 氏名	川崎 昌和
-------	------------------------------	---------------	-------

(検討結果)

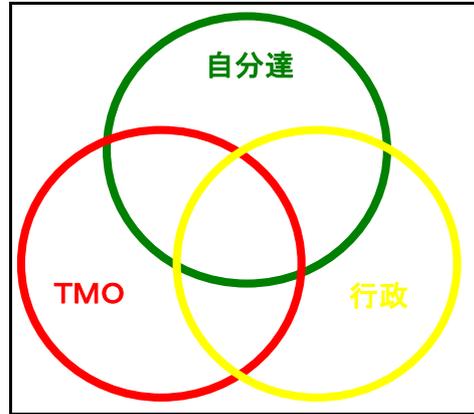
今回は、前回のワークショップで考え出したにぎわいづくりのアイデア（特に、個店や商店街としての魅力向上につながるもの）を実現していくために、「自分たちに何ができるか」を考えてきました。「個店の魅力づくり」の基本はあくまで個々の店主の努力ですが、その個々の努力を引き出しながら、サポートし、中心市街地全体としての動きに変えていく仕組みが必要であるとの意見が多く出されました。こういった動きをつくっていくには、まずもって、市民・商店街双方が「中心市街地は市民にとっての『公共財』である」との認識を広め、文化力を高めていくことが重要だという共通認識が得られました。特に、市民でもできる（はずの）ことが数多く挙げられましたが、こうした市民からの動きを受け止めることのできる仕組みをしっかりと考えていきたいものです。

なお、次回のワークショップでは、商店街を語る際に避けては通れない「空き店舗問題」・「代替わり問題」について、「激論」を交わす予定です。

「和歌山市中心市街地活性化基本計画(改訂版)策定のための市民ワークショップ」 ワーキング Aグループ 「自分たちができること」ステージ 2004/7/14



Bグループ 「お気に入りの風景やスポットのあるまち」 界索性創出ワーキンググループ			
今回の議題	「自分たち，TMO，行政が すること・できること」	ファシリテータ 氏名	西川 昇
<p>(検討結果)</p> <p>今回は事前にタイムテーブルを作成し、そのタイムテーブルに沿って進行しました。また、今後の3ステージは「自分達」「TMO」「行政」の3者の役割について同時に討議していくことのできることを取りました。前回までに、課題→原因→解決策と話をしてきたので、今回は前回の討議内容であった解決策をさらに具体的に考えてもらうとともに「誰が」行うのかを考えてもらいながらシートに書いてもらいました（20分間）。</p> <p>この時に、参加メンバーに「1人につき6案書いてください」とお願いしたので、かなりの数の案が出てきました。その後、右図を用いて「誰が」別に配置した後、キーワードごとに分類していきました（60分間）。前回から話題にあがっていた「まちの見せ方」「MAP作成」「ポリシー」「プロデューサー」「メンテナンス」に関する解決案と、今回からは新たに「安全」というキーワードが加わりました。これは「まちが安全であるのは、風景以前の問題である」という意見がメンバーから出たために加えました。 → 配置分類後の結果</p> <p>また、解決案の配置を考える前提として、現在のメンバーで話をしても、これだけの数のアイデアが出るのであれば、今後、市民から「お気に入りの風景・スポット」に関する具体的な解決案が提案されたときに実現しやすい仕組みを作る必要があることを再確認しました（現在不明確な窓口の問題や、金銭的な問題、協力体制などの諸問題を解決する仕組み）。次回からは、今回出た解決案をもとにして、さらに具体的な解決策にしていきたいと思えます。</p>			



Cグループ

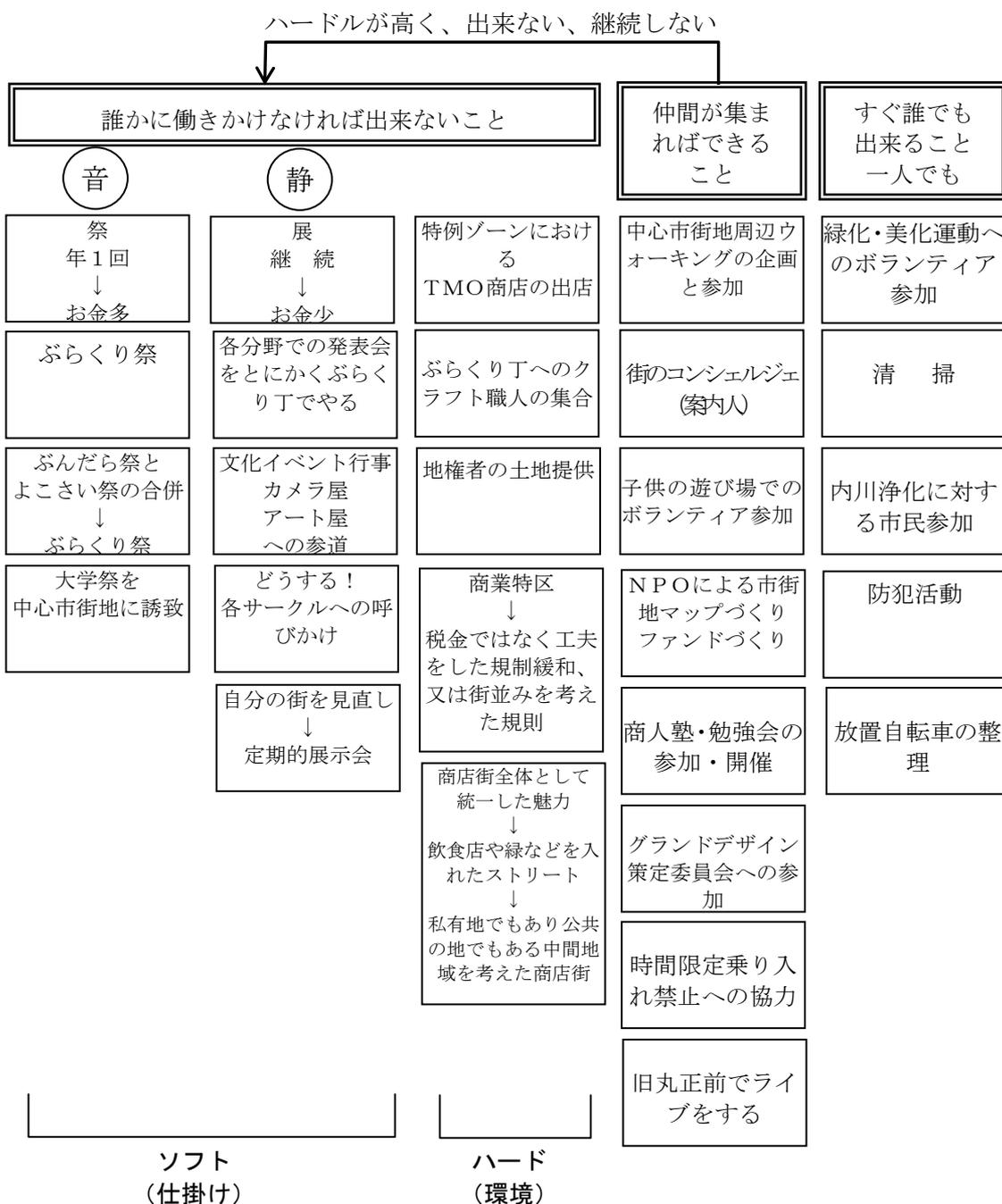
「長い時間ゆっくり過ごせるまち」回遊性・滞留性創出ワーキンググループ

今回の議題	「自分たち、TMO、行政が すること・できること」	ファシリテータ 氏 名	片桐 裕明
-------	------------------------------	----------------	-------

(検討結果)

今回「自分たちがすること・できること」というテーマでワークショップを行いました。事前に考えをまとめて臨んで頂けたので解りやすいワークショップとなりました。特に「発表会をぶらくり丁で」という提案は大変具体的でした。

今回は下図のハードルが高く、出来ない、継続しない」という課題をどうすれば、解決できるのかについて、もう少し意見をだしてもらおうこととなりました。



Dグループ

「高齢になっても生き生きと暮らせるまち」暮らし空間創出ワーキンググループ

今回の議題	「自分たち、TMO、行政が すること・できること」	ファシリテータ 氏名	鳥淵 朋子
-------	------------------------------	---------------	-------

(検討結果)

最初に大学生の市民メンバーから「どうして中心市街地に住みたくない」かは「知り合いがいない、魅力を知らない、車社会に対応していない」ということが原因だという話をさせていただきました。コミュニティという視点で考えた場合に「*タウンモビリティの導入」がいろいろな問題解決の起点になるのではないかという提案から、具体案が一気に絞り込まれました。今回は「コミュニティの視点からの問題点・解決法の再考と具体案の整理」の予定でしたが、「タウンモビリティの導入」を柱にして、これまで出た問題点の解決も連動させて詳細を詰めていく方向で合意しました。タウンモビリティ導入の範囲は「中心市街地特区」から和歌山城までで、今回は前提条件の整理をはじめ、役割分担、優先度、難易度、費用などを評価しつつ、具体的な内容を検討していきます。

*移動が困難な人々の身になって市民、企業と行政が手を携えて、車椅子などを用意して買物や施設の利用の手助けをする。そうすれば、商店街や集客施設の売り上げも伸び、町の活性化にもつながる。英国発の新しい取り組み。

	問題点	解決策	具体案	役割				
				市民	TMO	行政		
全体	環境	良好な住環境	安心・便利・楽しくをモットーに					
		街に活気を まちに元気がない	よさこい祭りのような全国的な催しを 住民の意識改革					
	経済	活気が少ない	人通りが多くなる仕掛けをつくる					
		中心地に住むための経済的不利	居住費(新築・賃貸)への補助					
	景観	看板等が乱雑	看板の規制					
		内川が暮らしの場になっていない	内川への動線の整備					
安心	道路	安心して歩ける道	完全バリアフリーの道 歩行者と自転車の専用道路					
		人の道と車の道がごっちゃませ	動線計画					
		自動車の混雑	エリア別の車乗り入れの制限					
		車が多く廃ガスが悪そう	車乗り入れ制限区域の設置 歩行者専用道路を増やす					
	緑	犬の散歩道、みどりの道、人の散歩道	みどりの歩道、公園の拡張、土の歩道をつくる					
		緑が少なく空気が悪そう	緑を増やす(公園を増やす、街路樹を増やす、居住者の努力)					
		緑が少ない	住宅・商店の緑化義務化					
	便利	交通	公共交通機関の不備	バスの利便性向上対策 中心地の停留所の増加 バスレーンの明示 行政がバス路線経営参画 タクシー利便性の向上 交通機関の連絡性の向上 鉄道駅前の整備 バスルート変更				
			店舗	日用品店舗が少ない	食料品の店舗に来てもらう			
				中心地に食料品や日用品を扱う店がない	旧市街にスーパーが出店して成功している例がある			
楽しい			通り	通りがオシャレでない、目的地がない	既存の公園を改良し、本格的な都市公園に 公共空間をオープンカフェに オープンスペース シンボル 統一性			
コミュニティ								

タウンモビリティ
の導入



次回の予定

次回（7月28日予定）のワークショップも引き続き、中心市街地活性化のために、「自分たち、TMO、行政」が「すること・できること」について検討し、具体的な事業案を探っていきます。